



# 沢辺税理士事務所通信

平成 30 年 2 月 1 日号

NO. 048

## コインチェック 580 億円流出問題と「貨幣論」

年初めには、本当は「仮想通貨第2章」みたいなタイトルで書こうと思っていましたが…。この1ヶ月でビットコインなどの仮想通貨には様々なニュースがありまして、まさに激動の1ヶ月でした。

最大のニュースは、1/26 に仮想通貨取引所コインチェックから当時 580 億円相当の「XEM(ネム)」が不正送金された事件です。要はハッカーから盗まれたのです。コインチェックは国内最大級の取引所で、ビットコインを含む 13 種類の仮想通貨が取扱いされています。

まず驚いたのがその金額です。ネムはこの13種類の仮想通貨のうち時価総額の大きさは6番目です。6番目の仮想通貨の保有高が580億円ですから、全ての仮想通貨の保有高の合計は1兆円を超えていてもおかしくないと思います。

さらに数日後にコインチェックは463億円を自己資金で顧客に弁済すると発表しました。コインチェックは運営を開始してまだ3~4年の会社ですよ！ベンチャー企業でこれはすごいです。

ただ考えてみますと、コインチェックでは取引の際に3~5%のспред(実質、手数料みたいなもの)を取ります(ビットコインは無料)。月間取引高が4兆円を超える月もあったらしいので、単純にこの半分がビットコイン以外としても、2兆円×3%=600億円の売上高が1ヶ月であった計算になります。これなら確かに何とかならなくもないですよ。月間粗利益600万円の会社が463万円なら、無理すれば返せるかなと。

日本は今、世界で最も仮想通貨を取引している国と言われています。以前は中国でしたが中国が昨年全面的に仮想通貨取引を締め出す動きをしましたので、今は日本です。日本政府は仮想通貨取引を締め出すことはせず、昨年からの仮想通貨交換業者を認可制にしました(コインチェックは申請中だったことも問題になっていますが)。正式に「貨幣である」とも認めました。世界に先駆けてです。つまり政府が監視をしながらも、適正に市場を守っていこうという姿勢が見え隠れします。ここからは私の妄想ですが、産業革命から続いた産業が衰退した際に金融大国として復活したイギリスより、日本は仮想通貨大国として君臨するという狙いがあるのではないのでしょうか。

仮想通貨に批判的な方の理由の一つとして、「そんな価値のないものに値がつくわけがない」というものがあります。私はこれには反対です。貨幣の歴史でいいますと、もともと貨幣は物々交換の時代に、「肉一切れと米どれくらいが平等な交換なのか」という尺度として誕生していきました。銅銭1枚が肉一切れと同等で、かつ米ざる1杯分が同等なんですよ、といった感じです。19世紀になると金本位制ができ、政府は金(きん)を保有し、その価値と同額の紙幣を発行しました。紙幣を金の価値で保障するのです。やがて紙幣は金の裏付けがなくとも政府の保障で発行するようになりました。今では紙幣そのものに価値があるとみんな理解しています。

ところで金(きん)って何で価値があるのですか？ピカピカしてきれいだけど、食べれないし、特別何かの材料に重宝されるわけでもないです。紙幣にいたってはただの紙です。つまり貨幣とは万人がその価値を認めるかどうかであって、貨幣そのものが紙であるとかデジタルであるとかは本質的には関係ないのです(偽造や盗難などの安全性の問題は別ですよ)。

沢辺税理士事務所 株式会社沢辺会計コンサルタント

〒732-0811 広島市南区段原三丁目3番27号 段原メディカルビル3階

TEL 082-236-3935 FAX 082-236-3936 HP: <http://www.sawabe-ac.jp>